

福井県医師会

だより

第727号 令和4年(2022)1月

新春特集号



赤に染まる

鯖江市 今野 利男

表紙写真説明：赤に染まる

鯖江市 今野 利男

夕方雨が止み、日も射してきたので、急に思い立って越前海岸に行きました。虹も出たのでその写真を撮ったり、ウミネコや夕日を撮影したりで、あっという間に時間が経ちました。日没後しばらくしたら、空が赤みを増してきて、海までもが同じ色に染まっていました。海と空が赤に染まり、水平線が分からなくなるという夕焼けを初めて経験しました。同じ感激をもう一度味わいたいと、この場所に何度も足を運んでいます、いまだに果たせていません。

新年のご挨拶

福井県医師会長 池端幸彦

新年明けましておめでとうございます。

一昨年末は、文字通りコロナ対策に明け暮れた1年であり、お盆もクリスマスもなく、お正月もあってないような新年の幕開けでしたが、昨年末より新型コロナウイルス感染症も、何故かようやく県内はもとより全国的にも落ち着きをみせ始めております。しかし世界的には既に第6波をうかがいそうな新しい変異株も拡がりをみせており、まだまだ不気味な令和4年の幕開けとなった感があります。まさか二年越しで新興感染症に振り回され続けるとは思いませんでした。今やもう世界中が「元の生活」に戻るのではなく、“With COVID-19”に対する“New Normal”を生き抜く覚悟が必要なのかもしれません。

考えてみると、新型コロナウイルス感染症がこの地球上、更にはこの日本にもたらした影響もまた計り知れないものがあると言えるでしょう。不幸にして生命を奪われてしまった多くの方々やそのご家族、更に今でもその後遺症に悩んでいらっしゃる方々は勿論のことですが、我々医療界に置いても、新型コロナウイルス感染症によって、世界に冠たる国民皆保険制度を有する日本の医療提供体制の脆弱性が露見したことや、大変残念ながらワクチンや治療薬の開発の面でも世界からは一歩も二歩も遅れを取ってしまったこと等、多くの反省点も挙げられます。

しかしまた出だしこそ遅れをとったワクチン接種ですが、潤沢な供給が保障されてからの一直線上とも言える接種率の伸び方や、マスクや手洗い、ソーシャルディスタンスや換気等の基本的感染対策の徹底ぶり等、日本人の底力をみせつけた事もまた事実であり、この日本人魂で

もう一踏ん張りして、今年こそは何とかこの危機を乗り切りたいものです。

さて本年はまた、2年に1度の診療報酬改定の年でもあります。昨年末に発表された第23回医療経済実態調査では、診療報酬による特例的な対応があったもののコロナ補助金を除く損益率は大きく悪化し、一般病院（国公立を除く）、一般診療所（医療法人）ともコロナ補助金がなければ約半数が赤字となっており、一般病院では、コロナ補助金を含めても赤字病院が4割を超えている実態が報告されました。にもかかわらず財源面からは厳しい改定率が予想されている事は、極めて残念と言わざるを得ません（新年号発刊時には、既に決定されているはずですが…）。

一方、社会保障審議会医療保険部会で決定された「改定の基本的視点と具体的方向性」では、（1）新型コロナウイルス感染症等にも対応出来る効率的・効果的で質の高い医療提供体制の構築、（2）安心・安全で質の高い医療の実現のための医師等の働き方改革等の推進の2項目が共に重点課題として示されており、更には地域医療構想や医師偏在対策、外来機能の分化・連携等、課題は山積しております。はからずも私自身、一昨年より中央社会保険医療協議会（中医協）委員を拝命しており、会員各位の声も十分反映しながらこれらの課題に真摯に向き合い、広く国民のため更には会員のための改定を実施すべく議論を重ねていきたいと決意しております。

最後になりましたが、あらためて県医師会役員一同はもとより、各郡市区医師会、更には医師信用組合、医師協同組合、医師国保組合等の会館内関連団体とも一致協力のもと、決してコ

